

鏡の中の私

鏡に鏡が三つある

仕事で必要だった大きな鏡

と、スリッパで不ふりれて

うすすことにはおまわり

次はとろりの部屋が かつて手あらいを

していった鏡

三つ目はパイ又の女性のほりもりの手かがみ

どれか ほんご便うことほり

月に何回か 手かがみを見

手かがみに ほうれていり女性と手あらい

手あらい 危なげな手あらいの甲に見ることおまわり

今年前にも 何年か前は

手あらいの女性だった

以前 地下鉄ののりかえり道路を歩いた

そこに鏡が三つと知りず

つと見ると 太った女性だった 私うしろ

手あらい これおまわり

いどり うしろのほうそり女性の存在

いどり

それども

いそわしく けたういていゝころは

存んとか 若いころのようになり

ふしやれを心かけた

股打げかりでなく 身のまわりの小物も

髪をうけていた

けといつても けがらかった

どうしてこんな免染トケのわ

まわりは若い若いと

けがれをくねう

どう見ても七十代とゆう

それじや やはり年よりじやない

九十も七十も年よりだ

その筆に消えのりたいたい思ひで

すこしていの

2024
3/9